
闇市日和

若槻夕都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇市日和

【Nコード】

N8461H

【作者名】

若槻夕都

【あらすじ】

『闇市』と呼ばれ、巷の出来損ない達の間で噂となっている、違法な物品を取り扱う場所があるのをご存知だろうか。本作ではその『闇市』に出入りする一人の若者を主人公として、その実態と核心に迫った。

e p · i 往路にて（前書き）

この作品はあくまでフィクションであり、実在の人物、団体および建造物等に一切関係ありませんし、それらの名誉を毀損するつもりは一切ございません。

また麻薬や拳銃などの違法なものや殺人、傷害など暴力的な描写がありますので、ご注意ください。

繰り返し強調させていただきますが

この作品はフィクションです。

作者の脳内で勝手に作り出した物です。

作品にある通りの場所に行ったり、登場人物と同じ行動をとったところで何の意味も無いかと思えますので悪しからず。

e p . i 往路にて

1章

夕陽が沈みかける頃。

部屋の静かな空気を打ち破るように
携帯のアラーム音が鳴り響く。

とっさに体が縮こまり、
ほぼ同時に瞼が持ち上がる。

そうだ、今日は久々に
『仕事』があるんだった

ああ、背中が痛い。
昨日の喧嘩の疲れが残ってるらしい。
厄介なもので、寝起きというものは
体がひどく重く感じる。
運動後であれば尚更だ。

ひと呼吸置いて、眉間にシワを寄せながら体を起こす。

冷房をかけ忘れたまま寝ていたので
体が汗ばんで気持ち悪い。
まだ予定までは少し時間があるから
汗を流してから家を出ることにした。

風呂場の鏡に写る自分の顔が水垢で霞んでいた。

夕暮れ時のカラスの鳴き声…

近所の子供の笑い声…

隣の若夫婦の寝室から聞こえる甘い声…

全て、俺の日常に溶け込むBGMだ。

ぬるいシャワーの水を頭から被り

さっさと水を止めてタオルで全身を拭く。

とても有能とは言えないドライヤーで頭を乾かしながら、7時の二
コースで要人の来日が無いことを確かめる。

要人が来日すると、いたる所で職務質問や検問の嵐だからだ。

要人の移動なし。

目立った事件もなし。

今日も至って平穏だ。

要するに…

絶好の『闇市日和』。

闇市へは徒歩と地下鉄で向かう。

名城線で上前津へ向かい、鶴舞線に乗り換えて大須観音駅の改札を
抜ける。

大須商店街を伏見通りに向かって歩いて行くと左手に伸びる路地裏
に見えてくる、薄汚い雑居ビルの二階に上がり、人影が無いことを
確かめる。

そして、一番奥の部屋の扉を開けて右へ曲がり、部屋の片隅にポツ
リと佇むクローゼットの角に手をかけると、見かけとは裏腹に、ギ
ギツと音を立てて簡単に動いた。

そこには階段があった。

だがそれは一階ではなく、地下へと続く物だった。

先に動かしたクローゼットを元あったように戻し、階段を下ってゆく。

相変わらず狭い通路だ、と呟きながら30段ほど下ると、鉄製の扉に行き当たる。そこを開ければ俺の仕事場が待っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8461h/>

闇市日和

2010年10月11日20時55分発行